

しまね長寿・子育て安心住宅リフォーム助成事業 『補助対象チェックシート(バリアフリー改修)』

チェック内容(項目ごとに☑チェックをしてください)

バリアフリー改修

工事をしない既存部分を含めて、下記の全ての項目が☑チェックを入れて「適合」になると補助対象になります。

昭和56年6月1日以降に着工した住宅ですか？

はい(適合)

いいえ → 耐震診断を実施し、安全性を確認している(適合)

耐震診断を実施し、加算項目の耐震改修等(※1)を行う(適合)

60歳以上の高齢者又は身体障がい者(※2)が居住している

はい(適合)

いいえ → 工事完了までに同居予定(適合)

住宅は自己所有されているものですか？(賃貸住宅は対象外です。)

はい(適合)

いいえ(不適合)

補助の対象となる工事の費用が30万円以上ですか？

40万円以上(適合)

40万円未満(不適合:補助対象外)

過去に島根県の住宅リフォーム関連の補助金を受けたことがありますか？

いいえ(適合)

はい(不適合)

工事にあたり、石綿(アスベスト)の事前調査(100万円以上の工事は報告まで)が行われていますか？

はい(適合)

いいえ(不適合)

※ 工事の規模、請負金額にかかわらず、改修工事を行う場合、事前に石綿(アスベスト)の使用の有無について、工事施工者が調査を行うことが義務づけられています

※ また請負金額が100万円以上の工事の場合、この調査結果を労働基準監督署及び保健所へ報告することが義務づけられています。(R4.4.1～)



※詳しくは、施工者へ確認の上、石綿総合情報ポータルサイトをご覧ください。 <https://www.ishiwata.mhlw.go.jp/>

特定寝室が存在する階にトイレがありますか？

あり(適合)

なし → 今回工事で設置する(適合)

設置しない(不適合:補助対象外)

日常生活空間(※3)内の床に、やむを得ない部分(※4)以外の段差(※5)がありますか？

段差なし、または対策済み(適合)

あり → 今回工事で解消または対策する(適合)

解消・対策をしない(不適合:補助対象外)

指定する箇所(※6)に手すりが設置されていますか？

全ての箇所に手すりあり(適合)

未設置の箇所あり → 今回工事で不足する部分全てに設置する(適合)

設置しない(不適合:補助対象外)

日常生活空間内の通路の幅が750mm以上ありますか？

ある(適合)

ない → 今回工事で幅を確保する(適合)

拡幅しない(不適合:補助対象外)

日常生活空間内の浴室の広さ(※7)は確保されていますか？

確保されている(適合)

確保されていない → 今回工事で確保する(適合)

確保しない(不適合:補助対象外)

日常生活空間内の便所が腰掛け式ですか？

腰掛け式である(適合)

その他の便所 → 腰掛け式に改修する(適合)

改修しない(不適合:補助対象外)

日常生活空間内の便所の広さ(※8)が確保されていますか？

確保されている(適合)

確保されていない → 今回工事で確保する(適合)

確保しない(不適合:補助対象外)

特定寝室の面積が内法寸法で9㎡以上有りますか？

9㎡以上ある(適合)

ない → 今回工事で広さを確保する(適合)

確保しない(不適合:補助対象外)

施工者(元請業者)は島根県内に本店を有する事業者ですか？

はい(適合)

いいえ(不適合:補助対象外)

下記の項目が☑チェックを入れて「適合」になるとそれぞれの項目が加算対象になります。

部分的耐震改修等

『部分的耐震改修の加算チェックシート』のチェック内容すべての項目に適合しましたか？

- はい(適合) いいえ(加算対象外)

子育て世帯と親世帯

子育て世帯と親世帯の同居(または近居)ですか？

- はい → 同居(適合)
 近居(地区公民館区域または直線距離5Km以内)(適合)
いいえ → 工事完了までに同居予定(適合) 予定なし(加算対象外)
 工事完了までに近居予定(適合)

空き家バンク

空き家バンク登録住宅を購入しましたか？

- はい(適合) いいえ(加算対象外)

住宅に求められるバリアフリー性能(整備基準)の概要

補助対象となるバリアフリーの状況判断は「住宅の品質確保の促進等に関する法律」に基づく「日本住宅性能表示基準」の「高齢者等配慮対策等級3」程度(下記5項目)により判断します。改修工事後には、工事をしない既存部分を含めて下記の条件を全て満たす必要があります(すでに表示基準に適合している部分は、工事をする必要はありません)。

- 1) 高齢者等の利用が想定される寝室(特定寝室:1室以上)と便所は同一階(原則1階)にあること
- 2) 日常生活空間内(※3)の床は、止むを得ない部分(※4)以外に段差が無いこと、又は、段差対策(※5)がされていること
- 3) 住宅内の指定された箇所(※6)に手すりが設置されていること
- 4) 日常生活空間内の通路の有効幅が750mm以上確保されていること
- 5) 特定寝室、便所及び浴室の広さが確保されていること

用語の定義・解説

※1 耐震改修等

昭和56年5月31日以前に建築された島根県内に存する既存の一戸建ての木造住宅で改修前の上部構造評点が1.0未満であるものについて行う耐震改修及び部分的耐震改修をいう。

耐震改修とは、既存住宅の上部構造評点を1.0以上とする改修工事をいう。

※2 身体障がい者

「障がい者の雇用の促進等に関する法律」に規定される身体障がい者で身体障がい者手帳の交付を受けている者をいう。

※3 日常生活空間

高齢者等の利用を想定する主たる玄関、便所、浴室、脱衣室、洗面所、寝室(1室以上)、食事室及びこれらをつなぐ通路をいう。通常使用することがない部分(高齢者等が使用しない寝室、便所、廊下など)は、該当しない。

※4 止むを得ない部分

- ・玄関の出入口及び上がりかまちの段差
- ・勝手口その他屋外に面する開口(玄関を除く。)の出入口及び上がりかまちの段差
- ・居室の部分の床にある300mm以上450mm以下の段差で生活に支障のないもの
- ・浴室の出入口の段差で、下記の条件のいずれかを満たすもの
20mm以下の単純段差としてのもの
浴室の出入口に手すりを設置したもの

※5 段差対策

日常生活空間内の床にある段差に対し、手すりの設置又はスロープが設置されていること。

※6 手すり設置を指定する箇所

- ・階段
- ・便所(立ち座り用)
- ・浴室(浴槽の出入り用)
- ・玄関(上がりかまちの昇降用、靴の着脱用)

※7 浴室の広さ

- ・浴室の短辺方向の内法寸法が1,300mm以上
- ・浴室の広さが内法寸法で2.0㎡以上

※8 便所の広さ

- ・便所の長辺の内法寸法が1,300mm以上
- ・便器の前方又は側方について、便器と壁との距離が500mm以上

ただし、内部寸法が不足していても、出入口等を開放することにより同等の空間(介護スペース)が確保できる場合は、必要な広さが確保されていると見なす。